



東通原子力発電所のいま ～日常の現場から～

当社は、東通原子力発電所1号機の再稼働を目指し、原子力規制委員会による新規制基準適合性審査に適切に対応するとともに、所員一丸となって安全対策工事や設備の保守管理に取り組んでいます。

運転停止の状態が続く中、現在、発電所ではどのような業務を行っているのか、所員の日常をシリーズでご紹介します。

第1回は、電気必修課の大友健太（むつ市出身）です。

現在、どのような業務を担当していますか。

主に発電機や、送電線から受電した電気を発電所内で使用するための変電設備のほか、非常時に使用する電源車の保守管理を担当しています。

今日は、どんな作業を行ったのですか。

タービンと発電機は1本の軸でつながっているため、長期間停止しているとタービン本体の重さで軸がたわんだり、軸受け部分の潤滑油が乾燥してしまいます。そのたわみや潤滑油の乾燥を防ぐために月に1回程度、タービンを低速で回しています。今日は、タービンと発電機を回す前の準備作業として、発電機のさびの発生を防ぐために発電機に取りつけている防湿シートの取り外しなどを行いました。



防湿シートを丁寧に取り外す様子

プロフィール

電気必修課
大友 健太（おおとも けんた）



青森県むつ市出身。2010年入社。
中学時代まで野球部に所属。東京や札幌の球場に何度も足を運ぶほどの熱狂的なプロ野球ファン。現在はコロナ禍で球場に行けないため、野球専門チャンネルを視聴する毎日。

業務を進めるうえで心がけていること、注意していることなどを教えてください。

作業計画を立てるにあたっては、協力会社のみなさんが安全に作業できるよう、十分な時間を確保するとともに、ほかの作業と時間帯が重複しないよう関係個所との十分な調整を心がけています。

最後に、再稼働への思いや今後の抱負などについて教えてください。

発電所は長期間停止していますが、いつでも再稼働できるよう日頃から緊張感を持って、設備の保守管理に万全を期していきたいと思います。また、今年から高压ガスを取り扱う担当となりましたので、より高度な知識を得るため、資格取得を目指します。



慣れた作業でも操作個所に誤りがないか慎重に事前確認

下北ジオパーク清掃活動に参加しました

下北ジオパーク推進協議会（会長 宮下むつ市長）、東通村、および東北電力むつ営業所の共催により、4月17日に東通村石持漁港に隣接する北部海岸ジオサイトで「下北ジオパーク清掃活動」が行われ、当発電所から49名が参加しました。

今回は、新型コロナウイルスの感染防止を図る観点から、広く一般住民の方への参加呼びかけは行われず、同協議会、東通村、および東北電力企業グループのみでの活動となりました。参加した約160名は、砂浜に打ち上げられた空き缶やペットボトル、流木など、大小さまざまなゴミ約590kgを約1時間かけて回収しました。

本年2月に再認定を受けた下北ジオパーク。私たちは、これからも下北の美しい自然の景観を守る活動に積極的に取り組むとともに、下北ジオパークを応援してまいります。



大量のゴミを拾い集め、いい汗を流した参加者



宮下会長と畑中東通村長も参加



巨大な流木も漂着



※写真撮影時には会話を控えました